



つながる医療

狭心症、心筋梗塞について②

日本における死因の第一位はがん、第二位に心疾患が15.0%と続きます。心疾患の内、約40%が心不全であり約30%が心筋梗塞や狭心症となります。心筋梗塞や狭心症を合わせて虚血性心疾患といいますが、誰もがなりうる生命を脅かす怖い病気です。今回は虚血性心疾患について、総合大雄会病院循環器内科の谷信彦医師が解説します。

第二回 虚血性心疾患の検査と診断について

●虚血性心疾患の検査、診断はどのようになされますか？

まずは医師による問診を行います。どんな時にどのような症状が出るのか、症状はどの程度持続するのか、他に持病（糖尿病や高血圧など）がないか、などをお尋ねし状況を把握します。問診の後に、医師が以下の検査を選択し行います。
心電図▶心臓の電氣的な動きを、身体につけた電極で記録する検査です。心臓の筋肉が酸素不足に陥ると心電図に変化が現れるため、診断の重要な手掛かりとなります。しかし、発作があるときのみ変化が現れるため注意が必要です。運動により心臓に負荷をかけた前後で心電図検査を行うこともあります。

血液検査▶心臓の筋肉のダメージを調べる検査です。通常、狭心症では血液検査で異常が出ることは少ないです。心筋梗塞やそれに近い状態の場合は異常を認めますが、発症早期の場合は異常がまだ出ないことがあります。また、虚血性心疾患のリスク因子となる糖尿病やコレステロールについても評価します。

心臓超音波検査▶心臓の動きや機能を調べる検査です。心筋梗塞になると、障害を起こした部位で心臓の動きが悪くなります。

心臓CT▶造影剤という薬剤を使用し、心臓の血管に狭窄（狭くなること）や閉塞がないかを確認します。これまで心臓CTは形態的な評価（狭いところがあるか）のみであり、どの程度影響を及ぼしているかを判断することが難しかったですが、FFRCTという新たな検査が登場しました。FFRCTは心臓CTのデータを解析することで治療の必要性について判断することができます。（FFRCT解析の導入には厳格な施設基準が設けられており、現段階では全国でも導入可能な施設はまだ少ないため、検査については医療機関にお問い合わせください。）

以上の検査を施行し、その結果をもって心臓カテーテル検査（冠動脈造影検査）を行うかを決定します。

冠動脈造影検査▶手首などからカテーテルという医療用の細い管を心臓の血管まで進めた後、造影剤という薬剤を注入し、X線撮影装置を用

いて冠動脈（心臓の血管）の狭窄や閉塞を調べる検査です。冠動脈造影検査により冠動脈内の狭窄度（どの程度狭いか）は把握することができます。心臓CTと同様に血流量がどの程度虚血（組織や細胞に血液が十分に供給されない状態）に至っているかまではわかりません。そこで、最近ではFFR（冠血流予備量比）という検査を併用することが多くなっています。FFRとは圧力センサーがついたガイドワイヤーで狭窄部位の前後の圧を調べることで、血流量が狭窄部位でどのくらい低下しているかを評価し、治療の必要性を判断します。これらの検査を経て、その後の治療方法を決定していきます。

今回は、虚血性心疾患の治療について解説します。ご期待ください。

監修

循環器内科診療副部長 兼
救命救急センター内科部門
診療部長

谷 信彦
医師



〈主な資格〉

- ・日本内科学会 総合内科専門医
- ・日本循環器学会 循環器専門医



YouTube
チャンネルはこちら



Instagram
インスタグラム
はこちら



Facebook ページ
はこちら



未経験
のかたも
歓迎

看護補助者ほか
各職種の非常勤スタッフ 募集中!!
詳細は「大雄会 採用」で検索ください
☎ 0586-24-8891 (受付時間) 平日8:30~17:30